

5月19日。1年生の登校可能日です。生憎の天気でしたが、雨合羽で自転車に乗り、また傘をもって歩いて元気に登校してきてく



れました。バスの利用者は、まだ定期がないので降車の際時間がかかっているようでしたが、神姫バスも久しぶりに生徒を乗せて運行ということで、運転手さんもホッとされたのではないのでしょうか。(申し訳ないくらいに空のバスを運行されていましたので。)登校後は、県から指示のあった通り、教室に入れる生徒数を半分にしてい

間隔をあけて着席。教室も入学行事の際に入った教室ではなく、2、3年生の教室や講義室を使用しましたので、「2棟ってどこ？」と学校内で迷子になる生徒もいたのですが、職員総出であたり、無事に登校可能日の内容がスタートしました。朝の健康チェックの際、家で体温を測ってきていない生徒は保健室で体温チェックをしてから教室に。体育科の寮生以外の生徒は、ほとんどが休むことなく登校していたようです。今日が3日目の登校でもあり、教室でも話声が聞こえるなど久しぶりに友達と会い、和やかな空気に包まれました。先週配布した課題などでできていない部分についての自主学習をしながら、面談を進め、1年生の登校日は無事終了しました。来週の登校可能日は2日間。6月からの授業再開に向け良いスタートが切れるように、通学にも慣れてもらいたと思います。朝の健康チェックはご家庭の協力が不可欠ですので、よろしく願いいたします。併せて今回の登校に関して生徒とも話をさせていただき、ご要望、ご意見等ございましたらご連絡いただければと思います。体育科の寮生の皆さんも一部出席してくれたようで、保護者の皆さんのご協力に感謝申し上げます。登校できない寮生の皆さんはもうしばらくお待ちください。授業再開と共に寮を再開したいと考えており、今その準備を進めているところです。よろしく願いいたします。

先日、休業中にTVでも紹介された22年前に発行された五木寛之作「大河の一滴」という本を読みました。印象的だったのは、シェイクスピアの書いた「リア王」に出てくる一節に「人はみな泣きながら生まれてくる」があり、そこから三つの否定できない真理について書かれていたところです。①「人間は自分で自分の生まれ方を決められない」②「人間の一生は日々死へ向かって進んでいく旅である」③「人生には期限がある」の三つです。今、新型コロナウイルス感染防止対策で様々なことに我慢が強いられ、不条理に思うことも多い中、人生という大きな目で見ると「こんな考え方もできるのか、こんな考え方で乗り切らないといけないな」と少し参考になる考え方だと思いました。上記の3つの真理は否定的でマイナス思考にもとれるのですが、裏を返せば「人間は生まれながらにして自分で決められないことがある」「人間には寿命があり必ず死を迎えるときが来るから生きている間の旅を充実させよう」「人生は一度きり」と解釈すると「理不尽なことも、不条理なことも受け入れ、そのことに向き合い、いかにプラスの方向に変えて一度きりの人生を充実させるか」ということだと考えました。生徒の皆さんが頑張ってきた部活動や生徒会の発表の場、力を試す場がどんどん奪われてしまったことは納得できない理不尽な、不条理なことだと思います。そのことをどう受け止め、どう向き合っていくか、先の読めない予測できないことに対して自分のできる事は何かなど考えさせられることは多々あります。気持ちを切り替えるのは難しいですが、前を向いて進めていくために五木寛之さんが書かれた内容のような考え方もできるのだと思えば少し気持ちが楽になるかもしれません。特に3年生の皆さんにとっては、心落ち着かず不安なことも多いと思いますし、切り替えられないこともあるかと思いますが、面談でもそういった思いを聞かせていただきますが、どこかでは切り替えられないといけない部分も出てきます。しっかりと向き合っていけるよう私達もお手伝いしますので、学校再開した暁にはこの局面を乗り越えていけるよう頑張っていきましょう。

20日は3年生、21日は2年生と登校可能日が続きます。皆さんの登校の様子やHRでの様子をうかがいながら再開に向けての準備を進めていきます。おそらく先生方も皆さんの顔を見ると安心されると思います。同時に「いよいよだ」と緊張感も出てきます。いきなり普段通りの学校生活というわけにはいかないと思いますが、学校に來れないさみしさや不安を思えばここからマイナスになることはありません。一歩ずつ前に進めていきましょう。